

2016/9/24

山陽

山

P3

くらし

夢再び

モンゴル恐竜調査隊

「今年は何を見つけるのが目標ですか？」

今年もゴビ砂漠へ調査に行く、というよくこんな質問を受ける。聞く方に悪気はないが、答えるのは難しい。「それが分ければ苦労はしない」と心中でつぶやき、「まあ、まだ頭骨だけしか見つかっていない〇〇サウルスの全身骨格なんか出てくるといいですねえ」などと適当にお茶を濁す。

正直に言う。本当に予想はつかないのである。だから以前発見したものを掘り出しに行く場合を除き「〇〇を見つけないでいきます」というのはうそである。

ただ、ゴビ砂漠はこれまでの実績から、部分骨格や歯や爪、卵のかげらなどは必ず見つかる。全身つながった保存のよい骨格はなかなか見つからないというだけである。これだけは運としか言いようがないが、その運の女神は比較的優しい。

10人以上の隊で3週間も調査すれば必ず全身骨格の化石は見つかった。岡山理科大―モンゴル共同調査隊も昨年はプロトケラトプスの幼体の全

② 化石探しの「目標」?

石垣 忍

全身骨格化石を発掘している。「皆さん、必ずヒットは出ます。ホームランもいずれ出ますから長い目でしばらくお待ちを」が私の本音である。

実は今年の調査はなかなかつながつた骨格が出なかった。調査を始めて1週間たっても大した収穫がないとみんなの士気が下がってくる。そんな時は夕食後にアルコールの入る会をやったり、冗談を言って雰囲気をよくするのも年長のリー

予想困難でも必ず成果

ダーの仕事である。

すると後半に入って全身の3割ぐらいがつながった植物食恐竜の部分骨格や、ボーンベッド(骨化石の密集層)、新たな足跡化石の産地、卵が集まった巢の化石などの新たな発見があった。そのため最後の2日間には持ち帰りのための作業で大変忙しかった。

期間中に見つけた部分骨格や単体の骨の中からどれを掘り出すかを判断

し、持ち帰らないものは場所を正確に記録して埋め戻す。持ち帰ると決めたものは、水に溶いた石こうに浸した布でぐるぐる巻きにして固め、トラックに積み込む。その化石入りの石ころの塊は小さなものは人頭大だが、大きなものは1個で100kg超。全部で28個を積み込んだ。大した成果である。

街に持ち帰れば実験室の中で化石を岩石の中から外す作業が始まる。研究や展示はそのあとだ。今年の28個を論文にするのは並大抵ではない。恐竜研究は時間のかかる息の長い作業である。もっとも恐竜の骨が眠っていた9千万年という気の遠くなるような長い時間に比べれば大した時間ではないが、



肉食恐竜アレクトロサウルスの歯。今年の調査ではこんな歯が60個以上見つかった

(岡山理科大教授)

Ⅱ 随時掲載